

腸炎ビブリオ対策

腸炎ビブリオは、細菌性食中毒の中でサルモネラと並び最も発生件数の多い食中毒菌です。

腸炎ビブリオは、他の食中毒菌と比して繁殖速度が速く、特に夏場の気候では非常に速く増殖します。



～その感染経路は？～

海水や海中の泥の中に潜伏し、魚介類や海鮮物を媒介して人へと感染します。



暖かい季節のアジやサバ等のエラやタコやイカ、貝類等の内臓等に付着しています。



塩分を好む菌である為、漬物など塩分を含む食品に二次感染し、感染源になる事も多々あります。



また、二次的に汚染された調理器具（冷蔵庫内やまな板等）を通じて他の食品を汚染する事もあります。

この腸炎ビブリオは、これから迎える季節で最も発生の危険が高い食中毒の1つです。

ご参考までに、腸炎ビブリオの『特徴と対策』を挙げさせて頂きました。

～特徴と対策を知ろう～

海水を好み、真水に弱いという性質があります。

腸炎ビブリオは真水の中では生きていけないので、調理前に真水（水道水）でしっかり洗います。

増殖能力が優れており、短時間で増殖します。

調理したさしみ（生食するもの）は、出来るだけ早く食べましょう。

100℃では数分で死滅し、4℃以下の条件化では増殖できません。

魚介類は出来るだけ加熱して食べましょう。また、調理する直前までは、なるべく4℃以下の低温で保存して下さい。

使用した調理器具はよく洗い、熱湯などで殺菌しましょう。

汚染された食品や調理器具からの2次汚染に注意が必要です。

魚介類と他の食品との接触を避ける為に、冷蔵庫には食品を詰め込み過ぎないように注意しましょう。また、魚介類から水分が垂れないようにしましょう。

これらの対策で、安全性が高まります。ぜひお役立て下さい。

FCC News

2009年5月号

NO. 0063



- 目次 -

消費者が求める飲食店のトイレ

異常気象で、地球の生態系が危ない！

腸炎ビブリオ対策

環境コラム

季節のムシ暦⑩

地球の環境衛生を創造する
株式会社 FCC
fine, comfortable & creative

株式会社 FCC

住所：神奈川県藤沢市辻堂元町4-3-32

電話 0466-31-3164

FAX 0466-31-3174

URL <http://www.fccsystem.co.jp>

E-mail info@fccsystem.co.jp

消費者が求める飲食店のトイレ

トイレはお店に来たお客様が、滞在中に一度は足を運ぶ場所です。



ある雑誌が一般の消費者に行った調査によると、トイレの印象がよいと『お店のイメージが上がる』と答えた人が全体の99%以上だったようです。

逆にトイレに悪い印象を持つと、『その店を利用しない』または『出来るだけ利用したくない』と答えた人が、合わせて90%近くにのぼりました。

同調査で消費者の94%の人が非常に重要な項目として挙げたのが『清潔さ』です。

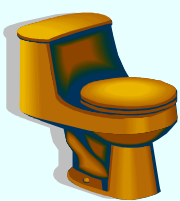
現在では昔と異なり、明らかに不衛生というトイレも少なくなりましたが、忙しい営業中にトイレにまで手が回らないお店が多いのが実状です。



お客様が不快に思う状況として、『ごみ箱からごみが溢れている』『周囲に水が飛び散っている』等、細かい指摘が目立ちました。

また、約46%の人が『匂いへの気配り』を重視。その殆どが『芳香剤の匂いがきつい』との指摘でした。

『鏡』『石ケン』『荷物置き場』



その他、「便座の温度」「便座クリーナーがある」「便座シートがある」「バリアフリーである」…等、お客様はトイレにプラスαを求めています。



お客様の衛生意識が変わりつつある今、トイレの印象というのは、お店の評価に繋がる重要なファクターになってきているのですね。



FCCホームページでは、トイレに関する衛生商品も幅広く取り扱っております。ぜひご覧下さい。

異常気象で、地球の生態系が危ない！

まず、皆様は異常気象と聞いて、何を思い浮かべるでしょうか。



…台風？ …洪水？
…竜巻？ …干ばつ？

異常気象というと、それら大きな被害を引き起こすものを思い浮かべるのではないのでしょうか。しかし、もっと身近なところで起きているのです。



いつもより少し暖かい夏や冬…、猛暑や暖冬も異常気象にあたります。では、暖くなる事により、どのような影響を受けるのでしょうか？

僅か1度の温度差で変わる生態系



1℃気温が上がると、生態系にはどのような影響が出るのでしょうか？

北半球で気温が1℃上がると、100km南下した場所と同じ環境になるといいます。



また、高度にして100m下った場所と同じ環境になるといいます。

私達人間は気温が1℃上がったとしても、「暖かいな～」位にしか感じませんが、周囲の環境に敏感な、他の動植物にとっては重大な変化をもたらします。

気候の変化に対応出来ない地上の動植物たちは徐々に生活圏を北上させ、高山で育つ動植物たちは徐々に上部へと生活圏を移します。中には、絶滅してしまう種も出てくるでしょう。



更に、気候の変化に伴って、今までなかった種の動植物や病原菌が現れる事が容易に予測出来ます。

これでは、地球の生態系は滅茶苦茶になってしまいますよね。

温暖化による異常気象により、絶滅種や絶滅危惧種の増加からもその影響を推し量る事ができます。

生態系破壊の足音はすぐそこまで迫ってきているのです。

【放花昆虫の世界に異変あり】

もう、生活の場で、「桃源郷」と云う言葉が思い起こせない、今日、この頃である。しかし、訪れた春は、スマレ、タンポポ、レンゲソウの花で山野が美しく彩られ活力が湧いて来る。
それに、花から花へと虫達が、翔び交う様は、なんとも長閑（のどか）で心温まる思いを誘う。
この花に集う虫達には、甲虫類に始まりチョウや蛾、ハエ・アブ類およびハナバチ類と極めて多様である。なかでも目立つのは、ハナバチ、ミツバチ、マルハナバチ、クマバチなどの蜂類とホウシヤクと云う蛾やハナアブ類だ。

このような花に集う虫を「放花昆虫」と云うが、この虫達は花粉の媒介者として、自然界で重要な役割を果している。

ところが、近年、こんな虫達の世界に異変が起っている。花が咲き、実がなるべきものが実を着けなかつたり、植物の種類によっては、「作物」に微妙な影響を及ぼすと云う。

その原因は、虫の「大量死」であるが、その死因は、まだ明瞭になっていない。この虫の大量死が、私達に実感できないが、生活の場に大きく関係している。

実は、食料品店の店頭にあふれている季節の果物、「イチゴ」は、今、この影響に悲鳴を上げている。このイチゴは、実を着けるために放花昆虫の助けが、必要なのである。その役割を荷っているのが、よく知られている「ミツバチ」なのである。

このミツバチには、ニホンミツバチとセイヨウミツバチの2種があり、イチゴの栽培に活躍しているのが、セイヨウミツバチである。

ミツバチと云えば、「蜂蜜」を彩る養蜂業がよく知られているが、果物農家では、「授粉」と云う重要な作業の荷手である。果物農家では、このセイヨウミツバチを輸入して使用している。

ところが、ここ数年、世界的に「ミツバチの大量死」が続き、大きな問題となっているが、その原因として伝染病や農薬などが上げられている。

ミツバチは、一匹の女王蜂を中心に、数十から数万匹の『働き蜂』、繁殖期には2000〜3000匹の『雄蜂』で、「ハチ群」を構成している。

ハチの活動は、3月から4月に越冬していた『働き蜂』が、蜜や花粉を集める事から始る。

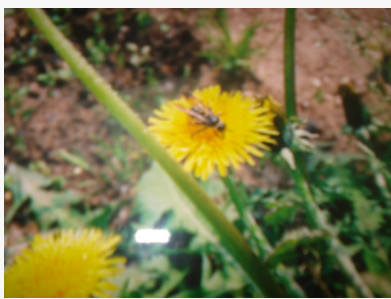
また、巣内に王台が作られ、新女王が誕生するが、新女王の羽化する直前に、旧女王は、ハチ群の半数を連れて、新しい巣造りに飛び立っていく。これが、ハチの世代の交代、つまり政権の交代というところである。

なお、セイヨウミツバチの成虫の寿命は、女王蜂が1から3年、最長8年と云う例もある。働き蜂は、活動期で異なるが、おおむね30日から60日、越冬期が140日である。なお、雄蜂の寿命は、21から32日と比較的短い。

女王蜂を支える数万匹の『働き蜂』の大量死は、食卓の果物へ及ぼす影響はすくなくからざるものがある。授粉用のミツバチの輸入量は、例年の30%減とは云われており、イチゴ、スイカ、ナシ、リンゴ、サクランボ、メロンなど不足をきたし、収穫量への影響が心配されている。

放花昆虫のミツバチ群が大幅に減る現象は、カメムシ防除のための農薬の影響が指摘されている。また、ミツバチの感染症（届出伝染病）であるノゼマ病の流行ともされている。これは、ミツバチノゼマ原虫（ノゼマ・アピス）によるもので、巣箱内で感染が拡大する。今、オーストラリアで本病が発生しており、この方面からの輸入が制限されている。

放花昆虫ひとつとっても、人間と深く関わりがあり、虫との交際は、「害虫」と云う目線を超える必要がある。



【写真説明】

タンポポに集う放花昆虫
こんな状況が見られなくなる時は、地球の危うい時なのだ！！

環境「リム」

ごみの分別収集が進んでいる今、『私は分別をしない』と主張する人の文章を拝見しました。その内容を要約すると・・・

最近は何でも『資源』『み』『み』『み』と云うのは何の価値もないものか。『資源』というのは価値のあるものを指し、『み』『み』『み』というのは価値のないものを指す。もし、純粋な『資源』であるならば、その『資源』に相応する価値が払われなければならない。対価が払われなければ、それは『み』以外の何物でもない。

古新聞や雑誌の廃品回収は、トイレトペーパーと云う対価を払う。それは、古新聞や雑誌が『資源』である為である。
ペットボトルを『資源』『み』として捨てず、一銭の対価も受け取れない。そのペットボトルを砕いて海外に売り渡しているのにも関わらずだ。だから、私はペットボトルを分別しない。「タダ」なのだから『資源』ではなく、『み』であるからだ。



といったものです。

なるほど、確かに『エコ』を前面に出して、儲けている企業は後を絶たしません。「タダ」で集めたもので、儲けている人がいると思うと分別するの馬鹿らしくなる気持ちも解からなくもありません。しかし、よく考えてみてください。『エコ』は何の為にしているのでしょうか。

勿論、一部の企業が儲ける為ではないでしょう。しかし、同時に消費者が得をする為でもないのでしょうか。

今まで、あらゆる資源を搾取し、自然を汚し続けて文明を発展させてきた私たち人間が地球に出来る恩返しと考えるとみてはいかがでしょうか？

最近、あらゆる資源の不足が著しいという事をよく耳にします。実際、今のままでいると約40年後には石油が枯渇すると言われているほどです。年々、森林は失われていき、水や土壌の汚染は進んでいます。

『エコ』を実践する時に、「私一人がやっても仕方ない」「私一人がやらなくても大丈夫」ではなく、一人一人が確実に実践していく事が重要なのではないでしょうか・・・。

